

[Interview] インタビュー「ごちゃませな人」第6回

酒井重義さん

柔道には、人を救う力がある

日本伝統のスポーツ「柔道」。その柔道に秘められた福祉と国際交流の力を最大限に引き出す「judo 3.0」という活動が少しずつ広がりを見せています。

中心人物は、宮城県在住の元弁護士、酒井重義さん。

実は、ソーシャルデザインワークスの監事を務めて頂いている方でもあります。

3.0にバージョンアップした柔道の底力とは。酒井さんに聞きました。



もともと柔道は、明治時代の柔術家、嘉納治五郎が各地にあった柔術諸流派の動きをまとめ、危険な殺傷術だったものを誰でも安全に学ぶことができる体育として改良したものを言います。これが「judo 1.0」。その後、東京オリンピックで五輪の正式種目になり、柔道は国際的なスポーツ競技として普及。世界で競技者を増やすことになります。それが「judo 2.0」になります。

わたしたちの提唱する「judo3.0」は「国際交流と福祉」を合わせた柔道といえましょうか。柔道選手の海外派遣、海外の柔道選手の日本での受け入れ、障害を持った人たちも楽しめる福祉としての柔道など、全国各地で様々なプログラムを提供しています。以前、道場巡りをするためアメリカを旅したことがあります。すごく歓迎されました。一緒に柔道したら、すぐ仲良くなっちゃって、メシ食いに行こうとか、どこに行ってもそんな感じでしたね。柔道をやっている外国人って、すでに日本文化に惹かれてる人たちの集まりみたいな側面があるので、選手として強い弱い関係なく歓迎してくれて、これが自己承認につながるんです。

ハーバード大学のジョン・レイティという脳科学の先生は、著書のなかで、うつ患者が運動すると、抗うつ剤と変わらないくらいの効果があると言っています。運動するとなんとなく気持ちが高揚したり、脳みが軽くなったような感じがするのは脳の働きだとレ

酒井重義 さかい・しげよし

宮城県石巻高等学校柔道部卒。東北大学法学部・同大学院法学研究科修士課程修了。元弁護士。柔道三段。都内の法律事務所弁護士として活動後、近年の脳科学などから社会をよくするポイント「運動」と「つながり」を軸にした教育・福祉・医療の再構築にあるとの認識に至り、福祉系ベンチャー企業における運動プログラム導入支援、発達障害児向け運動療育福祉施設の経営などを経て、2015年1月、judo 3.0（海を渡って柔道をしたら世界が変わった）実行委員会を設立。

イティ先生は言うんですね。これは、私が柔道で感じてきた自己肯定感や充実感と同じでした。

また、柔道はフィジカルコンタクトがあるせいか、人と人の距離を縮めてくれますし、それだけではなく、世界中に散らばる道場が、誰かにとっての居場所になることで、さらに自己肯定感を高めてくれるんです。私たちが、国際交流と福祉、この2つを活動の軸にしているのは、そのような理由があります。

嘉納治五郎が柔道を創始したのが1882年。治五郎がもっとも大切にしていた言葉に「精力善用」「自他共栄」という言葉があります。世の中の役に立つことのために能力を使うこと。そして、互いに信頼し、助け合うことができれば、自分も、他の誰かにも共に栄えることができるということです。つまり柔道には、もともと「自他の幸せを追求する」という福祉な考えがあったのでしょう。

日本には、部活動なども合わせれば、柔道クラブが9,000あると言われています。道場1軒で発達障害の子もたちを10人受け入れることができれば、日本全体で9万人もの子どもを受け入れることができます。莫大な予算をかけて新しい施設を作る必要なんてありません。道場は、いろいろな障害を包み込んでいく場所になれる。柔道には、その力が絶対にあると信じています。

いわきから「ごちゃませ」あらゆる障がいのない社会へ

GOCHAMAZE
times2017
AUTUMNvol.
6

特集 福祉ってなんだろう



CONTENTS

[Talk Session]

玉木幸則さん
(西宮市社会福祉協議会)

[GOCHAMAZE Report]

コミュニケーション講座
コンディショニング

[Interview]

酒井重義さん
(judo3.0 代表) and more...

[表紙アーティスト] 伊織-IORI-



西宮市在住の墨絵アーティスト。独学で墨絵を学び、人物画をメインに作品を発表している。薄墨を多用するのが特徴的で、繊細で深い表現、静と動の「静」の部分を描くことを得意としている。似顔絵作成やワークショップなども行っており、馴染みのない墨絵を身近に感じてもらえるよう活動している。

■http://instagram.com/iori_ink
■<https://ioriink.amebaownd.com/>



「福祉とは、そんなに小さなものじゃない」

西宮市社会福祉協議会
相談総務係 係長

玉木 幸則

対談

SOCIALSQUARE 西宮
スクエアマネージャー

松隈 茂雄

玉木幸則（たまき・ゆきのり）

1968年兵庫県姫路市に仮死状態で生まれる。4歳そこそこで肢体不自由児療育施設に入所。小中学校は、地元の普通学級で学ぶも、高等学校だけ泣く泣く養護学校へ。日本福祉大学社会福祉学部卒業、1992年自立生活センター・メインストリーム協会に入職以後、障害者の自立生活運動にのめりこむ。現在は、社会福祉法人西宮市社会福祉協議会相談支援事業課相談総務係係長。内閣府障害者政策委員会委員等を務めながら、NHK Eテレ みんなのためのバリアフリー・バラエティ「バリバラ」にレギュラー出演中。



松隈茂雄（まつぐま・しげお）

1976年福岡県福岡市生まれ。大学進学とともに関西へ移住し、親バカでもあり、釣れない釣りを週末の日課として西宮で生活中。イベント会社を経て、外国人エンジニアの採用 / 雇用コンサルティングにて10年間勤務。雇用側の施策や生活サポートにおける事業に従事し、ダイバシティ及びインクルージョナリーな組織・環境創りに興味を抱く。その後、障害者支援の業界に参画し、現在のSOCIALSQUAREにて勤務。事務局長兼スクエアマネージャー。



障害とは何かを問い続けるNHKのバラエティ番組「バリバラ」に出演し、いくつもの名言を生み出している社会福祉士の玉木幸則さん。実はその玉木さん、ソーシャルスクエア2店舗目を出した兵庫県西宮市で障害福祉の現場に携わっています。現場の抱える課題から「福祉とは何か」という深遠な問いに到るまで、ソーシャルスクエア西宮店の松隈茂雄がじっくりと話を伺いました。

松隈 玉木さんには、西宮店をつくる1年前から関わらせて頂いて、改めてこのように話を伺う機会を作って頂いてありがとうございます。私たちの会社は障害福祉ではやはり新参者です。以前からずっと福祉一本で関わって来た玉木さんにとって、私たちのような存在はどのように映っていますか？

玉木 ボクにとっては松隈さんがやりたいのは、こうしていつも議論して、課題が見えてくると「宿題ですね」なんて持って帰ってくれることで、とても頼もしいと思ってるんです。それに新参者って言っても、提供する形は時代の変化に応じて変わっていかないとダメだと思います。ずっと社会福祉法人って看板掲げてやってるところは、これまでの形を崩したくない。それが結果

的にサービスを受ける人にとって有効だったらいけど、必ずしも有効やとボクは思っていない。だから新たにやりたいと思ってくれる人たちを歓迎したいと思ってるんです。でも、マインドがなければ新しくてもダメですけどね。

松隈 ありがとうございます。新と旧って関係で思い出すのは、少し前に、埼玉のデイサービスの送迎を利用した人が、車内に放置されて亡くなってしまった事故です。あれ、もし運転の業務を外注していたら起きなかったんじゃないかと思うんですね。普通のバスの運転手なら落し物があるかどうかとか確認しますから。サービスや日常業務に慣れが出てしまう可能性もありますし、業界の中だけでやるのではなく、役割分担が必要なんだと。

玉木 結局、利用者を人として見てなくて、福祉サービスの商品としてしか見てないから起きたんだと思います。人として見てないから、慣れてしまって、放っておいたり、気づいても「まあいいか」となってしまう。そして誰も責任を取らない。あれは事故というか犯罪でしょう。

松隈 福祉の業界って「最後まで自分たちがやりきる」ことにこだわってしまいがちですが、役割は分担した方がいいんじゃないかと思えます。特に私たちは、自分たちに足りない部分もあって、

他の方々に協力してもらいながら、各々得意なことを分担しあってやろうと思っています。経験が浅い分、私たちのような新規参入組に対しては「ちゃんとやるのか？」など様子を見られたり、疑いの目で見られてしまったり、というのはあるように感じますが。

玉木 新しい事業所に事業指定を出す時、書類が揃っていれば指定を出すというやり方にも問題があると思えます。申請の時にね、その組織が、どんな理念を掲げていて、どんな武器や強みがあるか、逆にどんなところに問題があるかどうかを見極める目を持っていない。申請する側も、行政をパートナーではなく真実を隠すべき相手として見てしまう。

松隈 私は、監査や指導とかに向かって準備するのが好きじゃなくて。本来は日常的に頑張ってる、そのままの姿が検証されないといけない。そこで課題や注文が出てきてもクリアすればいいだけです。監査を通すためじゃない。誰のための福祉なんだと。だからこそ「自分のところだけでやらない」という選択が必要で、外部の目線を入れて、常に自分たちを見てもらおうことが大事ですよ。

玉木 もう、今の時代、ひとつの事業所で利用者を支え続けるのは不可能です。そういうことに気づいている人は、

いろんな人たちや仕組みと繋がってきています。既存のところは、自分のところだけでやって来たという自負もあるんでしょう。あれもこれもと、役割を厳格に切り分けていく傾向にあります。でもね、それをやると役割の間に隙間ができます。その隙間をどうするんだって話ができないとダメなんです。

松隈 そうですね。福祉事業所だけでなく、例えば求人媒体の編集者とか、大学のコーディネーターとか、業界の外の人たちも交えていくってレベルまで広げていければ、私たちでは追いつかない発想も生まれて来るはずですよ。

玉木 その意味で西宮の自慢しとくとね、こんなに障害福祉関係のケースワーカーが動ける地域ってないと思えますよ。西宮って、いい意味でやかましい団体とか人が大勢おるから、色々要望を、まあイヤモンもありますけれども、いろんな団体が言うてるから、聞かざるを得ない状況がここ何十年も続いてきます。本当に聞いてくれる地域は、珍しいと思っています。積み重ねがあるから、ちゃんと話だけは聞いてくれるんです。たらい回しなんてことを起こしちゃいけない。相談して来ることは、それだけ困ってるってことだからね。

関わる人たちがみんなで
“のりしろ”をつくる

玉木 さっき、役割と役割の間に隙間ができるって話をしたけど、間を埋める人がいるだけじゃ、溝は埋まらないです。何が必要かっていうとノリしろです。本当は自分の仕事はここまでだけど、でももうちょっとだけ頑張ったらええんちゃうかって、ちょっとだけ頑張る。それが増えていくと隙間が狭くなる。それだけのことなんです。

松隈 本当にそうですね。制度上、私たちの事業所を利用できないと判断されてしまったとしても「利用できません」だけじゃ現状は変わらない。仮に利用できなくても、私たちが出張りを作って、関係機関と関わりながら、どこが混じってくれたら石が動くのかを相談し続けることが必要です。

玉木 実際に色々な領域で実績も上がってきてるし、就労支援移行事業所とかも増えてきてます。けどもね、支援の手が届いてない人をどうするかって議論がもう始まってないといけません。大事なものは、今は解決できなくても、話を聞いて語り続けて、適切などころに繋ぐことができる人間です。色々なところ話を聞き続けるなかで、あ、これはここになってピンポイントで手が動く。そのためには、障害とか、高齢とか、貧困とか、そういう細かい言葉で切り分けちゃダメなんです。

松隈 相談業務というのは本当に大

事ですね。相談してストレスが生まれたり相談の意味がありません。簡単に答えが出ないケースが多いですが、「無理だ」と言わずに、できるだけアイデアを探る。それでも無理だっていう時にも考え続ける。そうやって未来に向けた課題を議論していくことが本当に大事ですね。

人を育てること

玉木 これからの時代は、ますますダイバシティやから、障害だけじゃないです。それだけ考えてたら息詰まるわけです。それよりも、人が人として生きていくためには、どういうことができるんやろうかって考え続けるしかないんですね。それは簡単には答えは出えへんけれども、諦めたらアカン。例えば、障害者であっても、母子世帯だったら母子の関心の制度が使えなくても子育ての仕組みで支えられるかもしれない。福祉ってね、そうやって広がっていくはずなんです。

松隈 確かにそうですね。ある意味での厳しさも必要だと思います。自分でできることは自分で行動することを促すような。

玉木 下手に障害があるからってやりすぎちゃうんですね。ボクは必要に応じて「だから？」って返しちゃう。「障

害があるゆえに困ってることと、あんた個人で困ってることと違うよね」って。これは自分でやりませんか、踏ん張ってみませんかってことも、ボくらとして提案できないとアカンわけで。福祉という看板を背負ってたらなんでもやってくれるって常識を取っ払っていくこともしていかなアカンです。

松隈 福祉って表現自体、なくてもいいのかもしれない。

玉木 福祉ってね、国語辞典には「全ての人に等しくもたらされる幸せ」って書いてるだけ。高齢とか、障害とか、子供とか、貧困とか書いてないです。ということは、人の幸せをみんなで考えていくことが福祉ってことになるでしょう。される側・する側とかの話じゃなくて、それは局面局面で変わっていくわけです。そこをわかっているかどうかで大きいと思います。

松隈 そういう人たちが組織のなかに入っていくと、組織が活性化するというんです。今って、福祉や障害の専門知識を持った人が採用されても、結局は障害者雇用のセクションでしか仕事を任されないことが多いけど、本来は、会社の人事部に入って様々な提案をしたり、より多くの人たちが活躍できる組織作りに関わることもできるはずなんです。もっと多くの人たちにメリットがあるんだってこと訴えていきたいですね。

玉木 まだそこまでは無理やね。教育の現場がそうになってない。福祉に関係する大学もそうだけど、専門バカが教えるから発想が広がらないんですよ。だから、管理とか保護とか、そういう視点が強くなって、抜けない。

松隈 確かに福祉っていうと、就職とか、職業訓練みたいなイメージが強いんですね。でも、本来、福祉ってそうじゃなかったはずですよ。

玉木 今は「社会福祉学」とかいうけれど、そもそも福祉って、社会学も心理学も経済学もいろいろな分野が寄せ集まって成立する学問のほうです。でも、どんどん福祉が狭くなってきている。それを拡張することが必要なんだと思います。ほんとはね、人間学っていうか、倫理とか思想とか、そういうレベルの話なんです。それなのに、今のイメージだと「困った人をどう助けるか」って、しょうもない話になってしまってる。

松隈 おっしゃる通りですね。福祉が「みんなの幸せを考えること」ならば、福祉はもっともっと大きく捉えられていいはず。その意味でも、福祉にはそういう力があるんだということ、色々な組織の人たちに、堂々と訴えていかないといけないのかもしれない。玉木さんには今日も力強い言葉をありがとうございました。

GOCHAMAZEREPORT

障害の有無、性別、年齢、国籍・人種、好きなものやこと。みんな違う。同じ人なんていない社会はまさに「ごちゃまぜ」。違うということを認めることができ、相手を一人の人として知ることができたら知らないことでの恐怖や不安はなくなります。まずは同じ時間を過ごして楽しむところから。そんな機会を私たちは「ごちゃまぜ」と呼び継続的に活動を行っています。今回はその活動の中から2つのイベントをご紹介します。

Pick Up

1 コミュニケーション講座

1つ目は今回で3度目のコラボレーションになるスターバックスいわき鹿島街道店さんとのごちゃまぜイベント。普段の生活にも活かせるコミュニケーション術を学ばせていただきました。

Pick Up

2 コンディショニング

2つ目は自分の身体に耳を傾け、自分をより深く理解できるコンディショニングのごちゃまぜイベントについて。講師は、インストラクターの片寄幸子さんです。頑張らない運動で身体をリセットすると、気持ちも整います。みんなで静かに身体に向き合ったイベントを、片寄さんのインタビューと共に紹介します。

▼ 次回イベントの予定などはこちら ▼

facebook で検索!
「ソーシャルデザインワークス」

▼ 過去のイベントの詳細はこちら ▼

web で検索!
「ごちゃまぜタイムズ」

スターバックス × SOCIALSQUARE

人の想いを感じる コミュニケーション講座



ゲスト講師 **伊藤さん**
(スターバックスいわき鹿島街道店)

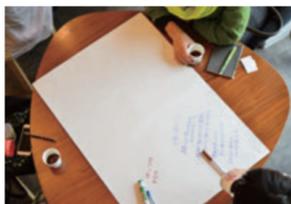
今回で第3弾となるスターバックスいわき鹿島街道店さんとのコラボごちゃまぜイベント。テーマは「コミュニケーション術」でした。コミュニケーションに悩まない人なんていない。そんな話からテーマをコミュニケーションにすることになりました。

店頭で気持ちのいい声かけをしてもらえると、その日はとてもいい気分になりますよね。でも、その気持ちいいと感じるコミュニケーションはみんなそれぞれ違う。違うということは、自分が心地いい関わり方をしても相手はそうではないかもしれない。そんなことを考えながら、どうしたら相手が心地よくなるのかスターバックスいわき鹿島街道店の伊藤さんの話を聞き、考え、実際にロールプレイをしました。



普段近くにいる人との関わりでうまく話す自信がなくてなかなか話が弾まない。どう話をすればいいのかわからない。そんな時にプラス1の声かけをすることで話が弾みます。ロールプレイでは普段、緊張して話すことが苦手なメンバーさん

も地域から参加した方と一緒にアイスコーヒーを注文するシーンでプラス1の声かけを一生懸命考えて頑張りました。



実際にこの講座を受けてからSOCIAL SQUAREの中でクルーや他のメンバーさんとの話が弾むようになった方がいます。方法を知って、実際にやってみて、成功する。この流れを経験することで自信がつき、その後の生活で変わることができるようになって本当に素晴らしいですね。SOCIALSQUARE 以外から参加した方もノートにメモをしたり、実際にロールプレイをしたりすることで、新たな気づきがあったようです。コミュニケーションの講座が地域の中で求められていると感じた1日でした。

講座の中で「今までに印象に残っている接客」をグループ内で話す時間がありました。その中で「自分は外国人で、今は日本で生活をしていて、日本語も話せるのに、話しかけると英語は話せ

ないんです、と言われてしまう」というお話がありました。見た目が違うことで勝手に「日本語は話せない」というイメージを持っている方がいるのでしょうか。



このごちゃまぜイベントは障害の有無や年齢、性別、国籍など関係なく色々な人が存在している社会を知るというテーマもあります。実際に見た目は外国人

だけど、日本語が話せます。という話を聞いて今度から「日本にいるから日本語が話せる」とか「見た目が外国人だから日本語は話せない」という固定概念を傍らに置き、その人がどんな人なのか知ろうとする姿がみられるようになるかもしれないと感じることができたイベントになりました。



CONDITINING

- コンディショニング -

ゲスト講師インタビュー 片寄幸子さん



この度、コンディショニングのごちゃまぜイベントを行ってくれたインストラクターの片寄幸子さんにインタビュー!! どんな思いを持って普段生活されているのか、また何度もご参加して頂いているごちゃまぜについても聞いてみました。

Q ごちゃまぜとの出会いはどこでしたか?

私、ゴミ拾いや草刈りをすると心がスッキリするんです。そして何か地域貢献がしたいなあ。と思っていた頃.. たまたま見ていた facebook でグリーンパードの活動を知りました。参加してみるとゆる〜く活動する様子が集まって来る方達の雰囲気心地良くて.. それで何度か参加していく中でグリーンパード以外にもイベントをしている事を知り、それがごちゃまぜにも参加するきっかけになりました。

Q 幸子さんとコンディショニングの出会いを教えてください。

スポーツクラブのインストラクターとして働いている中で、お客様に必要なことで喜んで頂ける新しいスタジオプログラムを探していたの自分の強みを増やしたい! そう考えていた時に、心と身体を整える体調改善運動頑張らない運動と言われる「コンディショニング」との出会いを頂きました。

Q 今回、イベントを開催するに至った経緯をお聞かせください。

地域で行っていたコンディショニングのお誘いや様子を私の facebook で投稿し

ていましたら、SOCIAL SQUARE さんのクルーの方の目にも触れご連絡頂きました。いわきでは少ない新しい取り組みをしているSOCIAL SQUAREさんのごちゃまぜは面白い! と私はごちゃまぜに参加していたので、自分が提供する側になるなんてとても魅力的でしたしコンディショニングをまだ知らない方達に伝えられる良い機会にもなる! と思い喜んでお受けしました。

Q 幸子さんは「ごちゃまぜ」をどう思いますか?

今まで参加したごちゃまぜはどれも私の知らない世界で分け隔てのない色々な人達と楽しめる=新しい出会いに繋がる内容で楽しませて頂きました。先日行われたイベントでは何人かのグループに分かれてお話をする時間がありましたが発想の面白さや他人の意見を否定せずに優しく肯定しながら自分の意見を伝え合う様子がとても印象的でした。ごちゃまぜのジャンルに拘らないイベントを通して新しいモノや人を知ることで自分が新たに「知りたかった世界」が広がる! それが学びになったり楽しくて。ですから次はどんな企画をしているんだろう?とワクワクしてしまいます。

Report

自分の身体のことをどのくらい理解していますか? 今回は講師にインストラクターの片寄幸子さんをお迎えし、子どもも大人も一緒に18人でコンディショニングを行いました。一番身近な自分の身体ですが、どのくらいの方が自分の身体を「熟知している」と言えるでしょうか。身体はいつの間にかストレスが溜まっていて、そのストレスを解消するタイミングを欲しています。心が疲れているとき、身体のどこかにそのサインが出ているかも。そんなとき、このコンディショニングがあなたを助けてくれるかもしれません。



コンディショニングは「頑張らない運動」です。生活や運動する時の癖によって身体はバランスを崩し、そのバランスを崩した筋肉は骨格に歪みを招きます。姿勢の悪さや腰痛、肩こり、膝の痛みなど様々な不調も起こしてしまいます。コンディショニングでは骨格と筋肉を元々ある状態に戻すリセットコンディショニングと、筋肉が正しい動きが出来るように再教育するアクティブコンディショニングの2つの手法を用いて身心の状態をグットコンディション(良い調子)に整えることを目的とした体調改善運動です。

普段あまり運動をしない方も「頑張らない運動」と言うだけあって無理せずに



身体を動かすことができました。ただ、普段の生活の中では動かない筋肉や部位の動かす方も多くあったようで、身体を動かすことで凝っていたり、動きにくかったり、他の人よりも動いたり、自分の新たな一面に気付いていました。後半にも差し掛かると顔が赤らんで健康そうな皆さんの顔がキラキラしていました。身体を整えると気持ちも前向きに、明るくなります。一人じゃなかなかしない運動も誰かと一緒に行うことで「またやってみよう」「運動はきもちいいな」と思うことができた人もいたようです。

身体と心は密接です。自分の身体と向き合うことで無理していた自分に気づいて休めてあげられるかもしれません。

インストラクターの幸子さんのインタビューにもありましたが、元々参加者として来ていたごちゃまぜイベントですが、得意分野でプレイヤーになり地域の人に豊かな時間を創出してきたコンディショニングのイベントでした。



最後に。

- 2つのイベントを終えて -

福祉という言葉聞いて、どんな印象を持ちますか? 大辞林では「ふくし【福祉】」「し」は「祉」の慣用音。「祉」は幸福の意)幸福。特に、社会の構成員に等しくもたらされるべき幸福。「公共の一」「社会一」「一事業」としています。社会の構成員はこの地域に生きる全ての人のことを指しています。等しくもたらされるべき幸福というのは、誰かが楽しいと思えること、生きやすいと思え

る環境や制度、全てなのではないかと思えます。ごちゃまぜのイベントは障害の有無や年齢、性別や国籍などあらゆることで差別されず、みんなが楽しめる機会を地域の中に創出し、お互いを知ることで知らないことで生まれる境界線を消していくことを目的としています。今回ご紹介したスターバックスさんとのコラボイベントもコンディショニングも誰かを幸福にする一つの手段です。誰

もがこの「福祉」と言う言葉を意識している訳ではありませんが、実は誰かが「やってみよう」と思っていることは誰かにフィットする幸せや楽しみになり、福祉と言うことができるかもしれません。ごちゃまぜイベントで地域の人の楽しさを増やしたり、生きにくさを抱えている方が少しでも生きやすくなる、そんなことがこれからは沢山できるように地域の中でごちゃまぜイベントを実現していきます。

SOCIALSQUARE から

いわき

西宮



..... アニマルセラピー

皆さんは、動物と触れ合うことで心が落ち着いた、ストレス軽減、笑顔になったなどの癒し体験を一度はお持ちではないでしょうか？ それこそまさにアニマルセラピーです。動物と触れ合うことで、その人の精神的な健康を回復させることができると考えられており、情緒面での好作用による QOL の改善に期待されています。今回は、動物好きでもあるクルーの私が、アニマルセラピーあいあいさんにお越し頂きカリキュラムを実施！

必ず！と心の中では思っていました。スクエアで働いている今、動物好きがクルーに知れ渡る→アニマルセラピーを提案→実施ととんとん拍子で話が進みました。私の家でもネコ3匹・イヌ1頭を飼っていて、それぞれ個性があり、毎日楽しませてくれていました。動物と会話はできないけれど、動物たちは不思議と人間の気持ちを敏感に察知して対応してくれるんです。私自身がそれを感じ、いつも動物たちから元気をもらっていました。やっぱり不思議な癒しの力があるんですね。心が穏やかになるんです。その体験を、スクエアにも感じてもらいたいと思っていたので、みなさんの自然に溢れる笑顔を見られて、私も嬉しく思いました。
(いわき店 菊池文恵)

あいあいさんの存在を知ったきっかけは、私が動物たちのボランティア活動していた時でした。前職の高齢者福祉施設で、一緒に活動できないかと提案しましたが、条件的に厳しく、見送ることになりました。でも、いつか

..... 本でみつけた新たな繋がりがり

4月、西宮店のスクアと同時に、私も再就職に向け、スクエアを利用していただくことになりました。私の住んでいる地域では、自立訓練のサービスを受けられる施設が少なく、悩んでいたところ、指導員の方からスクエアのパンフレットを見せていただきました。いかにも障害者向けという雰囲気ではなく、活動も選択肢が多く、自分のペースで社会復帰を目指すという点に魅力を感じました。

読書をしたり、小説を書いたり、翻訳の勉強やコミュニケーションのプログラムに参加をしたり、通所を始めてから徐々にではありますが、着々と社会復帰へ向かっています。その活動の中の一つをご紹介しますと思います。地元、西宮の情報を集め、発信してい

るウェブサイト西宮流(にしのみやスタイル)の活動で、西宮が登場する小説を読んで、西宮が出てくる箇所をピックアップし、あらすじを書くという作業です。事務局・編集室へもお邪魔させていただきましたが、西宮に関する色々な物が飾られている、とてもユニークな場所でした。

文章を書いたり本を読んだりすることは、自分だけで完結してしまうものだと思います。自分だけの世界ですが、クルーの方々のお陰で、こういった繋がりが得られることもできるのだと知りました。大きな発見です。今後も、何かワクワクする活動に参加しながら、そこから、何か再就職へ繋がるものを自分の中に見つけることができたいなあとと思っています。
(西宮店メンバー A・T)

GOCHAMAZE PERU

ごちゃまぜペルー



.. 子どもから学ぶ「ごちゃまぜへの本能的な反応」..

僕が住んでいる首都リマでは、冬でも気温が10℃程度なので、そこまで寒くはないですが、この時期はどんより曇り空が数ヶ月も続くので、太陽がとても恋しくなります。そんな曇り空の日曜日、海沿いの公園には沢山の家族が子ども達と遊んでいます。日本でもよくあるほどのほのとした公園風景ですが、一つ異なることは国籍などの違いにより飛び交っている言語がごちゃまぜになっていることです。僕自身も経験があることですが、言葉の壁があると、それを乗り越えるためには結構な勇気と頑張りが必要だと思えます。

一方で、公園の中の子ども同士の世界だとどうか？ 最初は親子で遊んでいる子どもが多いけれど、自然と親から離れ、子どもだけで遊ぶようになり、1番

目の壁は簡単に乗り越えます。言葉なんか通じなくても関係ない、楽しければいいのですが、この時期はどんより曇り空が数ヶ月も続くので、太陽がとても恋しくなります。そんな曇り空の日曜日、海沿いの公園には沢山の家族が子ども達と遊んでいます。日本でもよくあるほどのほのとした公園風景ですが、一つ異なることは国籍などの違いにより飛び交っている言語がごちゃまぜになっていることです。僕自身も経験があることですが、言葉の壁があると、それを乗り越えるためには結構な勇気と頑張りが必要だと思えます。

そんな光景を、自分の娘を通して目の当たりにすると、『知らないから怖い』も人間としての本能的な反応だけ、それ以上に『楽しみたいから相手を理解しようとする』が本能的に優れていることを痛感されました。この子ども達の本能的なごちゃまぜへの反応は、もっと大人の社会にも広げられるはずですよ。
ペルー支部 北山剛 (代表理事)

Gochamaze New York

ごちゃまぜ ニューヨーク



..... 主張が出来る場所である。

「ノージャッジ」と、ある人が言った。時はアメリカ大統領選真只中。街でも、レストランでも、電車の中でも、聞こえて来るのは、トランプとヒラリーの話ばかり。アメリカ人だけではなく、アメリカに住むすべての人の今後に大いに関わることとあって、何か月もの間、人々の話題は大統領選一色だった。

意見はいろいろだ。私のルームメイトは2人のアメリカ人。大統領候補者のテレビ討論会をポテトチップス片手に一緒に見ながら、あれこれ話をしたものだ。いつとも彼らは私に意見を求めてくる。「ヒデミはどう思う？」と。求めているというよりは、思いを知りたいというほうが近いだろうか。ある場所で、トランプ支持者とヒラリー支持者が一緒になることがあった。どちらにも、それぞれ

の立場や言い分があり、思いがある。ある意見に対して、1人が否定的な発言をした。その瞬間に聞こえた言葉が「ノージャッジ」。判断をしないこと。誰もまちがっていない、だから、お互いを尊重しましょう。主張できる環境は、他者を「受け入れる」ことができている存在するものである。

ルームメイトの話をうんうんと頷き聞いていたら、「ヒデミの話をもっと聞かせてよ」と言われたことがある。空気を読んだつもりでいたが、どうやらそれは違ったようだ。その後私は、空気を讀んで、どんどんと自分の意見を主張するようになった。それ以降、ニューヨークは、私にとってさらに心地いい場所になった。
ニューヨーク支部 宮本英実 (理事)

SOCIALSQUARE

SOCIALSQUARE とは、「就労移行支援」と「自立訓練（生活訓練）」のサービスを提供している福祉事業所です。障害特性への理解がある支援クルーにより、生活習慣の見直しや働くためのスキル習得など様々なニーズに対応できる環境を整えています。就労移行支援では、体調管理、コミュニケーション訓練、職業訓練、生活相談などの支援を受けながら支援クルーと一緒に就職と、その後の職場定着を目指していきます。自立訓練（生活訓練）では、リラックスできるサードプレイスとして、さまざまな活動を通して、心に栄養を与えることや生活リズムを整え、活力ある人生に一步步踏み出していきます。

ソーシャルスクエアメンバー募集中
あなたの「やりたい」を応援します。まずは少し覗きにきてみてください！
佐藤有佳里

web <http://socialsquare.life>

いわき店

〒973-8404
福島県いわき市内郷内町水之出17
Tel : 0246-84-8301
Mail: ss_iwaki@sdws.jp

西宮店

〒662-0857
兵庫県西宮市中前田町1-27 ラビットビル1F
Tel : 090-8377-4839 (事業所用携帯)
Mail: ss_nishinomiya@sdws.jp

HAND STAMP ART PROJECT 応援通信

私たちソーシャルデザインワークスでは、一般社団法人ハンドスタンプアートプロジェクトさんの「2020年までに、障害のあるお子さんそしてその子ども達を応援する方々の手形を、10万枚集めて世界一大きなモザイクアートを作ろう」と言う企画の応援チームとして、10万枚のうち1万枚を

集める活動をしています。今年の4月1日から活動を開始し、現在2000枚を超えました。当法人の障害福祉事業所のあるいわき店に続き、兵庫県西宮市でも活動をスタートしました。たくさんの方々の場所でもたくさんの人が関わってくれています。まさに「ごちゃまぜ」です。

枚数にはカウントできていませんが、ワンちゃんやネコちゃんにもベタッしても良かったことあるんですよ(笑) インクとして使用しているキットバスという製品は、一般的なチョークにありがちな粉も飛ばず衛生的。環境にも配慮し、揮発臭もなく安心です。動物達がベタッす

る瞬間には、多くの人がその様子を見守り、無事に押したら拍手喝采(笑) それを見た人たちが集まって、興味を持ってくれる。そんな流れを多くのイベントで目にしてきました。今後も地域のイベントなどにも参加予定なので、手形を見つけたら、ぜひベタッしに来てくださいね！

編集後記
初めてGOCHAMAZEtimesの記事を書かせていただきました。これからはSOCIAL SQUAREではイベントを行っていきますので、気になったものは参加してみてください！今回は福祉というキーワードが色々な記事に出てきますが、読む方が福祉という言葉や概念について少し考えるきっかけになればいいなと思っています。障害や高齢、子育てなどその言葉に付随するのが福祉ではなく、もっと身近な存在なんです。 編集 / 佐藤有佳里

GOCHAMAZE times 2017 秋号
発行日 | 2017年9月20日
発行人 | 北山剛
編集 | 小松 理度(へきレキ舎)、佐藤有佳里
デザイン | 鶴澤里佳(marutt)、小松知寛
印刷 | 株式会社東海共同印刷
協力 | いわき市まち・未来創造支援事業